

41号・ハツニシキの収量が最も多くて550kg以上を示し、奈良錦・早千葉錦ともやや劣る収量を示す。各品種の普通植に対する晩植区の比率は第2表に示すとおりであり、奈良錦は晩植しても収量では大差がみられないが、他の4品種では晩植により5~12%の減収を示している。また各品種とも薄播・厚播両晩植区間に大差はみられなかった。

4. 結 語

福家のいうKF因子群に属する奈良錦は生産力の低い

品種ではあるが、晩植しても普通植にくらべて出穂遅延日数はやや少く、また普通植と晩植間・薄播晩植と厚播晩植間に大差がない収量をあげることができた。1956年の1カ年だけの試験結果から断定することは困難であるが、奈良錦にこのような特性があるとすれば、更に多収性をつけ加えると薄播育苗によらなくても晩植栽培が極めて容易に行われうようになるものと推察される。目下の所これ等の性質を具備した既存の多収品種は見当らず、今後出現する品種について検討を加えたい。

寒地早期栽培における水稻品種選定の着眼

相 馬 幸 穂・工 藤 富 夫

(青 森 県 農 試)

1. ま え が き

寒地の早期栽培適品種についてはあまり明らかにされておらず、早期栽培向きの適品種があるものかどうかを知るために、この研究を始めた。特に究明されなければならない特性は品種の早晩生・草型・稔性・有効茎歩合・収量等である。1958年は18品種(系統)を供試して、主に出穂変異・稈質・草勢・生産力などの諸形質がどのように変動を示すか探ってみた。

2. 試 験 方 法

早期栽培は㊤4月5日播き5月10日植えと㊦4月15日播き5月20日植えのビニール畑苗の条件を設け、主要形質については普通栽培(㊧保温折衷4月20日播き5月25日植え)と比較した。

3. 試 験 結 果

1. 出穂期・成熟期・出穂促進は各品種とも明らかで、早・中生品種が著しく、晩生品種ではそれほどではなかった。

2. 生育日数は一般に遅延するが晩生品種ほど延びる傾向にあり、田植期と平行して栄養生長期間が延びるようである。

3. 播種から出穂期までの日数は生育日数差よりも大きく認められ、ほぼ平行するようで、早生品種がやや著しい。早播早植によって栄養生長期間はどの品種も一般

に長く、晩生品種ではその傾向が著しい。

4. 稈長ならびに穂長は早生品種では増加を示したものが多く、晩生品種はこれと反対の傾向にあるが明らかでなかった。

5. 穂数は早・中生品種では増加の傾向が認められるが、晩生品種はあまり明らかでない。

6. わら重は早・晩生品種にかかわらず増加の傾向が認められる。

これは栄養生長期間の過剰生育とみなすことが出来るようであり、特に青系46号が注目される。

7. 精穀歩合は一般に低く、全重の割に精穀が軽い。わら重の増加率に比べ精穀重の増加率が低いことが示される。

8. 玄米重では増収を示したものは圧倒的に多かったが、農林17号やハウネンワセは減収を示した。

9. 出穂期と玄米重との関係

1958年の出穂期以後の天候は不順であったが、極端な晩生品種を除いては、ほぼ安全限界に出穂したので登熟には大差はなかった。

4. む す び

早期栽培あるいは普通栽培でも同様であるが、南東北及び北陸型の晩生品種は絶対収量は低く、増収量も少ないので期待出来ない。北東北の品種は絶対収量が高かった。

第1表. 生育並びに収量調査成績

条件	品種名	出穂期 月 日	成熟期 月 日	播種から 出穂期ま での日数	生育日数	成熟期の			a 当り		精歩合	玄米重 百分比
						稈 長	穂 長	穂 数	わら重	玄米重		
a	トワダ	-3	-6	+13	+9	+2.4	+0.5	+1.3	+7.3	0	-3.8	99.0
b		-2	-3	+3	+2	+4.3	+0.3	+2.7	+5.6	+1.3	-3.1	102.2
c		8.8	9.25	110	158	79.5	17.5	16.6	54.9	56.4	53.1	100.0
a	青系44号	-4	-6	+11	+9	+1.9	+0.2	+1.5	+3.4	+2.2	-2.1	96.5
b		-3	-2	+2	+3	+2.9	-0.5	+1.8	+7.9	+4.3	-2.4	100.3
c		8.8	9.22	110	155	72.4	17.6	18.6	50.6	52.3	52.7	92.7
a	青系45号	-3	-2	+12	+13	+3.4	+0.7	+3.4	0	+2.6	-1.0	102.7
b		-1	-1	+4	+4	+1.7	+0.6	+2.4	-1.1	+2.0	-1.6	101.5
c		8.14	10.6	116	169	77.2	16.7	18.1	61.9	55.3	49.1	98.1
a	青系46号	-1	-1	+14	+14	+8.7	+1.3	+6.3	+14.6	+4.1	-2.7	106.4
b		-1	-1	+4	+4	+6.7	-0.3	+0.1	+15.8	+8.3	-1.5	113.9
c		8.15	10.7	117	170	73.3	17.0	20.0	63.0	55.9	49.8	99.1
a	青系47号	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
b		-3	-2	+2	+3	-3.7	-0.3	+5.8	+2.3	-0.3	+2.3	89.5
c		8.8	9.22	110	155	77.6	17.9	17.9	50.6	50.9	50.8	90.2
a	ふ系41号	-2	-1	+13	+14	-2.3	+0.9	+0.2	-2.3	+2.4	+2.7	107.7
b		-2	0	+3	5	+3.8	+1.5	+3.0	+6.8	+2.2	-0.5	107.4
c		8.15	10.6	117	169	84.9	17.3	17.1	67.5	58.4	49.2	103.5
a	ふ系46号	-2	-3	+13	+12	+0.7	+0.4	+0.5	+7.9	+5.9	-0.5	104.1
b		-3	-3	+2	+2	+6.2	0	+1.7	+6.8	+1.3	-0.8	95.9
c		8.12	10.1	114	164	82.7	17.5	16.4	56.3	52.8	50.1	93.6
a	ふ系47号	-1	-2	+14	+13	+3.8	-0.6	+1.8	+2.3	+1.7	-0.2	100.5
b		-3	-5	+2	0	+7.7	+0.7	+2.0	+1.1	+1.9	-3.7	100.9
c		8.9	9.24	111	157	80.0	17.6	15.7	56.3	55.0	52.2	97.5
a	ふ系48号	-3	-6	+12	+9	+2.1	+0.8	+4.1	+4.5	+6.0	+3.4	99.7
b		-2	-3	+3	+2	+7.3	+1.0	+4.2	+9.0	+6.6	+1.1	99.3
c		8.8	9.26	110	159	75.6	16.5	18.7	52.9	50.3	48.4	89.1
a	藤坂5号	-4	-6	+11	+9	+1.9	+0.6	+0.2	+5.6	+0.3	-2.7	93.5
b		-2	-4	+3	+1	+5.4	+1.4	-0.1	+5.6	+5.2	-3.0	102.1
c		8.7	9.24	109	157	76.6	16.5	18.6	54.0	52.4	52.4	92.9
a	陸奥光	-2	-2	+13	+13	+1.6	+1.4	-1.3	+9.0	+7.5	-0.4	112.5
b		-2	-2	+3	+3	+0.7	+0.3	+2.9	+6.8	-0.1	-4.6	98.9
c		8.10	9.30	112	163	84.9	16.9	20.0	58.5	55.9	51.6	99.1
a	農林17号	-4	-3	+11	+12	-0.6	-0.1	+2.8	0	-0.5	-1.0	97.1
b		-3	-3	+2	+2	+3.6	+0.3	+3.6	+4.5	-5.4	-6.0	88.5
c		8.13	10.3	115	166	88.8	17.8	20.2	58.5	55.3	50.0	98.1
a	ホウネセ	-3	-7	+12	+8	-1.1	-0.7	+4.0	+9.1	-3.9	-2.5	95.8
b		-2	-4	+3	+1	+0.9	-0.4	-3.6	+4.5	-4.4	-4.7	94.9
c		8.10	9.30	112	163	84.5	16.7	26.0	60.8	57.9	50.3	102.7
a	メグミセ	-4	-5	+11	+10	+2.2	+0.7	+3.9	+3.4	+4.2	-1.0	100.3
b		-3	-4	+2	+1	+1.9	+0.9	+2.4	+3.4	+4.9	+2.2	101.7
c		8.12	10.1	114	164	82.0	18.2	22.0	60.8	52.4	48.1	93.0
a	チヨウイ	-4	-5	+11	+10	+1.8	+0.7	+1.6	+9.0	+3.0	-0.2	102.9
b		-4	-4	+1	+1	+2.8	+0.5	+3.0	+6.8	+3.3	-0.3	103.5
c		8.13	10.3	115	166	84.8	16.3	18.9	61.9	55.0	47.7	97.5
a	アキバエ	-3	-2	+12	+13	+2.2	+1.3	+5.7	+7.9	+6.0	-0.7	106.6
b		-3	-1	+2	+4	+3.5	+1.4	+5.1	+9.0	+5.3	-2.0	105.3
c		8.16	10.7	118	167	88.6	16.7	17.5	61.9	54.1	49.9	95.9
a	豊年変号1	-4	-8	+11	+7	+1.9	-1.0	+2.7	+3.4	+4.7	-0.1	98.3
b		-3	-6	+2	-1	+5.7	-0.8	+3.3	+4.5	+5.4	-0.4	99.5
c		8.11	9.30	113	163	71.8	16.2	21.1	55.1	50.7	51.1	90.0
a	藤五変号1	-5	-8	+10	+7	-2.7	-0.3	-4.9	+1.1	-0.9	-2.0	94.3
b		-4	-5	+1	0	-0.7	+1.0	-2.6	+3.4	+5.6	-0.2	105.7
c		8.12	9.30	114	163	83.0	17.1	24.0	61.9	54.0	49.7	95.8

注: aは4月5播き5月10日植え、ビニール畑苗。

bは4月15日播き5月20日植え、 "

cは4月20日播き5月25日植え保温折衷苗(普通栽培)。

要するにこの研究では早晩生は極端な晩生品種(平年
出穂期が8月15日以後の品種)でない限り、品種固有の生産能力を問題とすべきである。もちろん障害型耐冷性
・耐病性・耐肥性等の重要特性は決して閉却出来ない。